

神州不滅

敗戦八十周年記念公演

杉本修羅能

『巢鴨塚 ハルの便り』

なぜ我々は戦ったのか

ニイタカヤマノボレ

五族協和

大東亜共栄圏

堪へ難キヲ堪へ

国体護持

日時：二千二十五年（皇紀二千六百八十五年）八月十五日（金）十八時開演

会場：十四世喜多六平太記念能楽堂（喜多能楽堂）

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団、公益財団法人小田原文化財団



杉本修羅能

『巢鴨塚 ハルの便り』

解説 杉本博司

今年、我が国は大東亜戦争の敗戦から80年の節目の年を迎えました。敗戦を終戦と言いつつ、有耶無耶な戦後を、そろそろ整理しておかなければならないのではないのかと私は思うのです。

敗戦時の昭和20年に生まれた人は今年80歳になります。あの戦争を生身で知る人はほとんどがあの世に召されました。そして私は思い出すのです、あの時もそうだったと。それは平家が壇ノ浦で滅亡した時のことです。あのいづさが人々の記憶から薄れ行こうとする時、それは平家滅亡から80年ほど経った頃、どこからともなく、盲目の琵琶法師によって平家物語が語られるようになったのです。「平曲」と言われるこの物語は、のちに「能」となり、「浄瑠璃」になり、「歌舞伎」にも変調して、我が国における芸能の原点となったのです。

私は満州国建国の立役者であった板垣征四郎大将が、A級戦犯として巢鴨拘置所に収監されていた時に詠んだ長文の漢詩のコピーを偶然に入手しました。そこには刑死を前にして、この大戦に至る経緯と心情が簡潔に述べられています。国を思う心情、理想の国、満州国建国への熱情、私はこの話は「能」にしておかなければならないのだという使命感を感じたのです。

今、時代は右、左という思想的桎梏を超えた、さらなる混沌へと向かっているようです。あの、「先の大戦」は今、物語りとなって語られる時が来たように私は思うのです。

昭和の戦さの物語は、修羅能として中世の舞台に置き換えてあります。マッカーサー元帥は「松笠の中将」、東條英機は「東条の大臣(おとど)」、石原莞爾は「石原の少将」、板垣征四郎は「板垣征四郎常信」としています。副題の「ハルの便り」とは日米開戦のきっかけとなった「ハルノート」を暗示しています。

春の便りは魔の便りだったのです。

番組

解説 杉本博司

杉本修羅能『巢鴨塚 ハルの便り』

前シテ(老人)

後シテ(板垣征四郎常信の霊)

ワキ (唐土方の僧)

ツレ (舞人)

アイ (この辺りの者)

大島輝久

御厨誠吾

大島衣恵

鶴澤光

野村太一郎

笛 竹市学

小鼓 田邊恭資

大鼓 亀井広忠

太鼓 大川典良

後見 狩野一

金子敬一郎

地謡 川口晃平

林喜右衛門

谷本健吾

武田祥照

小早川泰輝

鷹尾雄紀

◎観客席/チケット料金(税込)のご案内

S席 10,000円

A席 8,000円

B席 7,000円

C席(2階) 5,000円

※未就学児入場不可



◎チケット発売日:

2025年5月3日(土)10時より

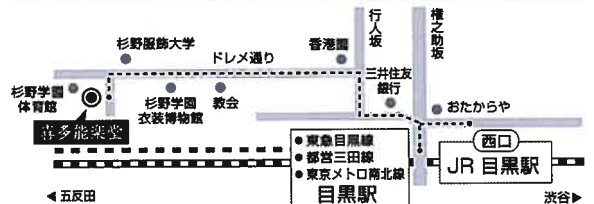
◎チケット取扱

インターネット予約
喜多能楽堂チケット予約サイト
(24時間対応、要登録・無料)
<https://kita-noh.com/>



電話予約 ※2025年5月9日(金)より
喜多能楽堂事務局
TEL. 03-3491-8813
(午前10時から午後18時 休館日あり)

十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)



[喜多能楽堂住所: 〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9]
JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

◎お問い合わせ

公演について
喜多能楽堂 TEL: 03-3491-8813 (午前10時から午後18時 休館日あり)
喜多能楽堂ホームページ <https://kita-noh.com/>

作品について
公益財団法人小田原文化財団 email: info@odawara-af.com